

本
店具家んは丸
電話 二八五三
工場 場部業
電話 二八五三

磐城経済新報

発行日 五日、十五日、二十五日
印刷所 大井川幸隆
福島市城郡平町十三番地
発行所 磐城経済新報社
廣告料 五號十二字詰一行廿錢
場所指定十錢増
新聞定価 一部十錢 月二十錢
一ヶ月二圓四十錢

艱色に見せる石城民政 旗鼓堂々たる政友の軍營

民政の對立抗争に反し

政友飽迄協定と自重で進む

民政黨石城部會に於ける萩原對野崎の對立は、この政戦を迎へるに至つて極端に激成され萩原派某氏の口吻に依れば『野崎さへ落選すれば、萩原が惨敗しても、政友會の大勝に歸しても吾々の溜飲が降るんだ』と。今や前記兩派の騒動は犬猿の間よりも、敵黨のそれよりも尖鋭化しつゝある斯かる難色に加ふるに、民政黨は果然候補難に際回した。

赤津修一氏が出馬を承諾した。小松章氏が快諾した。そこで比佐參與官が兩氏の自宅を訪問せるに、承諾した筈の御本人達此の如く何處にか隠遁しとんと姿を見せず、狼狽と陣痛の中に漸やく石川徳壽氏を立候補せしめるに至つた。が是によつても尙民政黨は動搖することなく、或ひは黨内の不平あり、或ひは大平陸四郎氏の殿、出馬説が傳へられ、餘震未だ去りやらざる不穩状態にある。此時に於て政友會石城部會は十日堂々たる豫選會を開催し井上、田子、赤坂の三氏に立候補をととめ、劃然たる地盤の協定によつて活潑なる運動を開始するに至つた。

石城郡民の父

井上候補を見殺すな!!

有権者諸君に訴ふ!!!

民政黨内閣組織されて以、今や各縣民の雇ひたる縣來二年有半『金解禁で景氣知事は、原案執行權を濫用が出る』『國產品愛用で經する事によつて黨利黨譽を濟界は一陽來復だ』と鳴物事とし、地方産業は與黨眉入りの大宣傳に終始しつゝ、氣の不平なる措置を以てのるが、井上候補が我々に無視されてゐるのだ。

約束した『好況來』は夢にも、吾々民衆の生活上は府不來、國民より食ふ仕縣會議員の多數者獲得に存事を奪ひ、餓死線上にあし、府縣會議事は、若槻不來、失業者二百五十余萬を數友會の優勝戦績は、若槻不來、吾々の生活水準を高め

閣は幾多の辭職すべき失敗だ、尙その維持改善を期するため政權に戀々乎として固執し、には有権者諸君の絶大なる今回の選舉戦に際しては安支持と同情に俟つの外は達選舉大臣の巧妙なる取締りによつて野黨を壓伏せんとしてゐる事は周知の事實だ。



井上茂作君
立憲政友會公認候補

入選を嚴にし、ナムパーワに井上茂作氏を擁立するに至つたのである。氏の立場と氏との存在とは餘りにポビュラされてゐるが、強ひて云はば年輩老境に達する成立。

は、一言半句實に味は、き名言、金言であつて聴衆の胸に感激を湧きた、せしめずには置かぬ典型的政治家家である。

氏の性格は余りに聖廉であり高潔である。氏は大衆に阿諛し媚びて迄も信頼を買はんとするが如き偽善者の歴史的事情に於ても井上では勿論ない。

それ故にこそ氏は赤貧に逐はれ、政治生活に於て薄命の嫌ひがあつた。

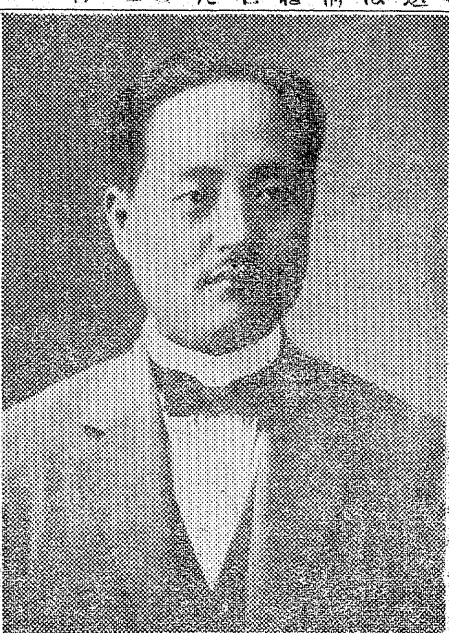
ウント働く人を!

田子氏を送れ

多數郡民は學つて

田子健吉氏を適任と見る

研究調査して電氣界



田子健吉君
政友會公認候補

縣會議員改選に當面して郡民は如何なる人物を自己の代辯者として縣政壇上に送りようとしてゐるか、之れは手腕の人、力量の人、純情無垢の新進政治家であらねばならぬ。此の意味から石城政友部會より推薦された田子健吉氏は最も郡民の渴望する適任者として一般選舉民より信望を繋ぎ日に優勢を傳へられてゐる。

田子氏は三坂村の産、若くして操觚の業に其力量を發揮し福島民友新聞の重要な位置を占め、總て同社の重役となり編輯局長として、社會の木鐸として、其の筆力亦行くとして可なり。其筆力亦行くとして可なり。其筆力亦行くとして可なり。

に偉大なる資料を提供して力を基礎として命令一下、其氣を吐いたものだ、現に荒川電氣會社の社長として送ることは佐藤庄太郎氏の他社に見ることの出來ぬ見政治生活の延長であり、再事な成績を擧げてゐる。事生であるとの見地から從來

後援會 員多數郡民の奮闘と同情とは日に其熱度が高め當選の榮冠を勝ち得るであらうと觀測されてゐる、事務所内にも選舉期日の切迫に連れて緊張し、事務長馬目雄次郎氏を始め

他に見る可からずと折紙を

